２　「全体への配慮」と「個別の支援」の充実
ー学級づくり、授業づくりの実践ー

２　「全体への配慮」と「個別の支援」の充実
－学級づくり、授業づくりの実践－

はじめに

本項では、推進校において実践している「校内環境、教室環境の工夫」や「掲示、板書等への配慮」など、８つの項目で事例を掲載しました。

「実践事例集」

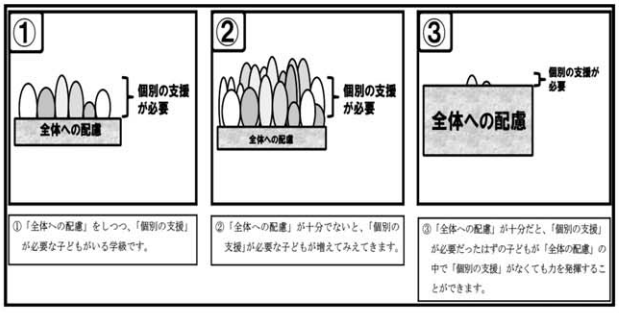
実践事例集の特徴

実践事例集は、全ての通常の学級において、特別支援教育の視点を生かした取組が実践されるよう、校内研修プログラムの活用の成果として得られた多くの実践事例を掲載した資料です。

通常の学級における特別支援教育の視点を生かした実践の考え方

通常の学級においては、教師が個別に支援が必要な子どもにかかわり過ぎてしまい、「全体への配慮」が十分でなくなると、全体が崩れてしまい、個別の支援が必要な子どもが増えて見えてきます。

逆に、「全体への配慮」が行き届いている場合、支援が必要だったはずの子どもが「全体への配慮」の中で、個別の支援がなくても、安心して過ごすことができ、力を発揮することができる場合があります。通常の学級における「特別支援教育の視点を生かす」とは、このように、「個別の支援ありき」ではなく、「全体への配慮」と「個別の支援」の両面で考えていくことが大切です。



「全体への配慮」と「個別の支援」

ポイント

・「全体への配慮」と「個別の支援」の両面で考える。
・ちょっとした工夫で行える支援を考える。

推進校が実践した児童生徒等にとっての分かりやすさを追求した様々な取組は、推進校が「実践の成果」として挙げているように、特別な教育的支援を必要とする児童生徒等への教育効果はもとより、全ての児童生徒等に効果が見られました。

推進校で取り組んでいるように、日常の教室環境や指導場面、使用している教材等を振り返り、少しずつ改善や工夫を行っていくことにより、効果的な指導を展開することが可能となります。

校内環境、教室環境の工夫①

幼稚園

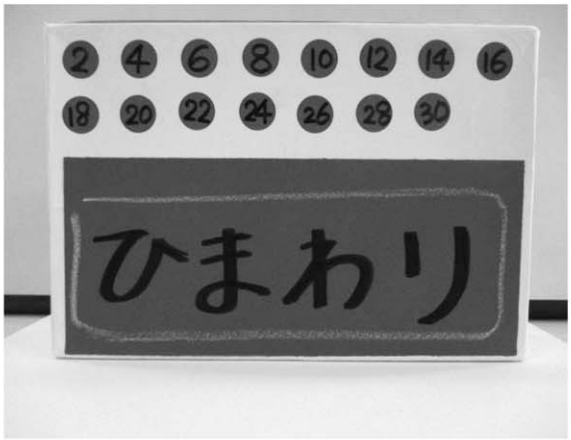
分かりやすく伝えることを工夫した取組

活用した資料

実践事例集Ｐ３、４

－幼稚園～保育の展開－

○ 実践の概要



４歳児クラス（左）と５歳児クラス（右）

本園では、遊戯室を使って活動する日を楽しみにしている子どもが多く、「今日は、どっちのクラスが使えるの？」や「次はいつ使えるの？」と、毎日、聞いてくる子どもの姿が見られました。

そこで、遊戯室前の見やすい場所にクラス名と、遊戯室が利用できる日（４歳児は奇数日、５歳児は偶数日）を記入したカレンダーを提示し、分かりやすく伝えることに取り組みました。

○ 実践の成果

一目で分かるカレンダーを掲示したことにより、遊戯室が使える日について、教職員にその都度聞く子どもが少なくなり、自分でカレンダーと照らし合わせて確認するようになりました。

また、カレンダーを見ながら、教職員や友達と遊戯室を使える日に何をして遊ぶか話すなど、教職員と子ども、子ども同士のかかわりに発展が見られました。

校内環境、教室環境の工夫②

幼稚園

視覚的に分かりやすく伝える取組

活用した資料

実践事例集Ｐ３、４

－幼稚園～保育の展開－

○ 実践の概要

視覚的な手がかりを工夫した掲示

本園では、言葉がけのみで理解して行動することが苦手な子どもが在籍していたことから、教室環境の工夫を行っています。

具体的には、椅子や掃除用具、積み木などの置き場所について、視覚的な手がかりとなる写真や絵、文字などを掲示することで、子どもにとって分かりやすく伝える工夫をしています。

○ 実践の成果

教室環境を工夫したことにより、子どもは、園の生活の中で、身の回りの物を自主的に整理整頓することができるようになりました。

その結果、基本的な生活習慣が身に付いてきています。

校内環境、教室環境の工夫③

小学校

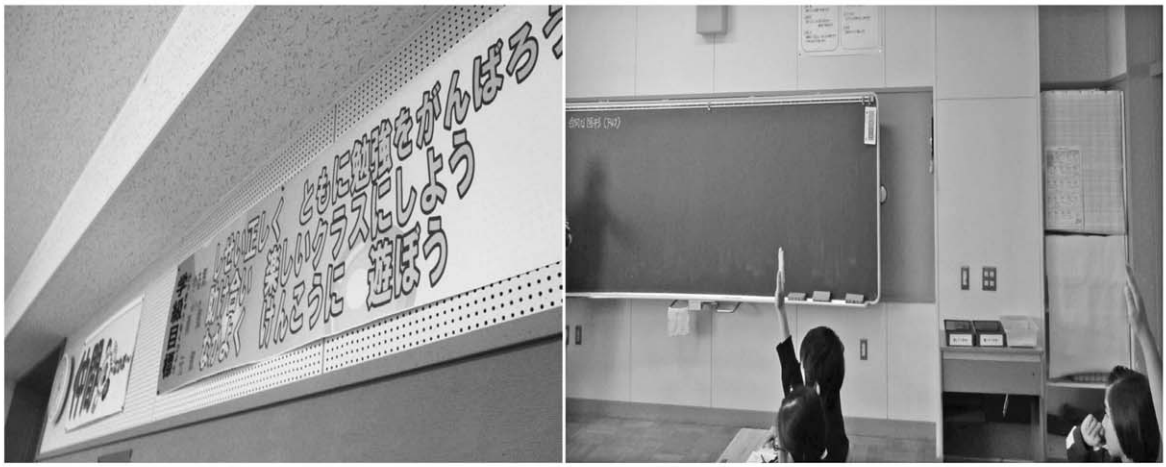
全体への配慮を意識し、教室環境を整備した取組

活用した資料

実践事例集Ｐ10

－小学校～学級づくり－

○ 実践の概要



学級目標などの掲示は教室横の壁面へ、教室の正面をシンプルにした様子

本校では、全体への配慮をしっかり行うことによって、個別の支援がなくても力を発揮できる児童を増やし、その上で一人一人に応じた支援方法を検討することが大切と考えています。

気が散りやすく、必要以上に刺激に反応してしまったり、ぼんやりしたりするなど、注意が散漫になりがちな特別な教育的支援を必要とする児童への支援として、実践事例集を参考にし、学級目標等の掲示物は教室横の壁面にするなど、教室環境を全校で統一することに取り組みました。

○ 実践の成果

全校で教室環境を統一し、一貫した指導や支援を行ったことにより、学級全体が落ち着いた雰囲気になりました。

その結果、児童の集中力が高まり、個別の支援が必要な児童も落ち着いて学習に取り組むことができるようになりました。

校内環境、教室環境の工夫④

小学校

言葉による指示を減らし、児童の気付きを大切にする取組

活用した資料

実践事例集Ｐ10

－小学校～学級づくり－

○ 実践の概要

視覚的な手がかりによる掲示を活用した玄関の様子

本校では、玄関のドアが開いたままになっていることが多く、教職員がドアをきちんと閉めるよう、その都度、児童に言葉がけを行っていました。

そこで、言葉だけの説明だけでなく、視覚的な手がかりを用いることでさらに分かりやすい支援になると考えました。

具体的な取組として、ドアにキャラクターを付け、ドアが空いていることを視覚的に分かりやすくすることで、玄関の出入りを行う際にドアを閉めることを伝えました。

○ 実践の成果

視覚的な手がかりを用いて校内の環境を整えたことにより、学年にかかわらず教職員が言葉がけを行わなくても、玄関を出入りした際にドアを閉めることが定着しました。

また、玄関のドアが開いているときには、気付いた児童がドアを閉める様子が見られるようになりました。

校内環境、教室環境の工夫⑤

小学校

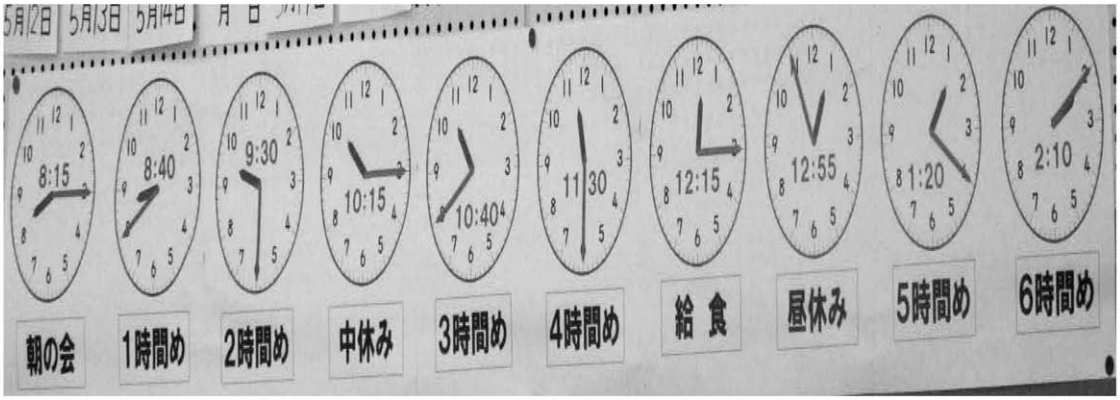
言葉による指示を減らし、児童の気付きを大切にする取組

活用した資料

実践事例集Ｐ10

－小学校～学級づくり－

○ 実践の概要



時間と時刻を一致させた掲示

本校では、授業が始まる時刻になっても、着席せずに立ち歩いていたり、教科書やノートなどを机上に出していなかったりするなど、授業の準備ができていない児童が在籍していました。

そこで、第２学年の取組として、時間と時刻の指導と併せて、朝の会から６時間目までの開始時刻を視覚的に分かりやすく掲示し、児童の気付きを促しました。

その上で、「チャイムが鳴る前に、トイレや授業の準備を終え、自分の座席に着席する」という約束事を確認するなど、教職員の言葉による指示を減らすことに取り組みました。

○ 実践の成果

視覚的な手がかりを活用し、言葉がけを精選したことで、児童の気付きを促し、授業が始まるときには全ての児童が授業の準備を終え、自分の座席に着席するようになりました。

効果的な取組を校内で共有することで、他の学級でも同じ取組を行うようになるなど、学校全体に取組が広がりました。

校内環境、教室環境の工夫⑥

中学校

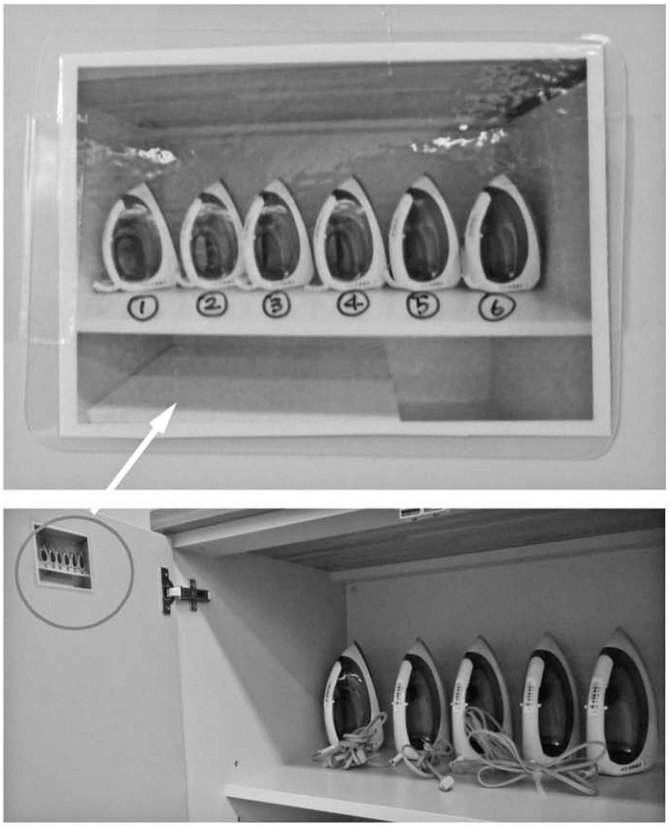
整理整頓を促す取組

活用した資料

実践事例集Ｐ10

－小学校～学級づくり－

○ 実践の概要



視覚的な手がかりを工夫した掲示

本校では、「あそこに片付けて」など、抽象的な言葉がけを理解することが難しい生徒が在籍しており、その都度、言葉がけを行っていたため、後片付けに時間がかかっていました。

そこで、写真カードを手がかりに片付けができるように工夫しました。

左の写真は道具（アイロン）の片付け方を示したものです。

その他にも、校内には椅子の片付け方の写真を掲示する等、生徒自らが整理整頓を意識できるよう工夫しています。

○ 実践の成果

教室環境を工夫したことにより、教職員が言葉がけを行わなくても、所定の位置に使った道具（アイロン）を片付けることが習慣化しました。本実践の成果をもとに他の学習活動においても必要に応じて視覚的な手がかりを用いるなど、校内や教室環境の見直しにつながりました。

掲示、板書等への配慮①

幼稚園

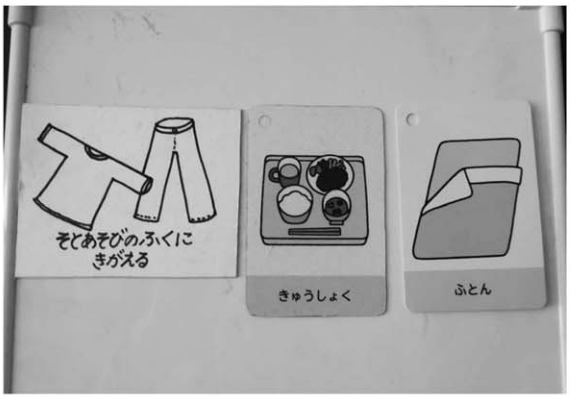
どの子にも
分かりやすく伝える取組

活用した資料

実践事例集Ｐ３、４

－幼稚園～保育の展開－

○ 実践の概要



１日の大まかな日課の提示

椅子に座るときの足の位置（姿勢保持）を
分かりやすく示した表示

本園では、担任と支援員が定期的に打合せを行い、一人一人の成長に合わせてイラスト等を提示し、１日の大まかな日課や生活上のルールなどを理解できるよう取組を進めています。

指導に当たっては、子どもが日課に見通しがもてるよう、子どもが楽しみにしている興味のある活動を日課に位置付け、その活動に向けてがんばることを視覚的な手がかりと併せて分かりやすい言葉で丁寧に伝えています。

また、幼児期に身に付けてもらいたい習慣についても視覚的な手がかりを用いて指導を行っています。

○ 実践の成果

視覚的な手がかりを用いることにより、全ての子どもが見通しをもち、安心して楽しく園での生活を過ごせるようになりました。

また、基本的な生活習慣が身に付き、自分で行動できるようになってきました。

掲示、板書等への配慮②

小学校

要点を明確にした板書の取組

活用した資料

実践事例集Ｐ14、16

－小学校～授業づくり－

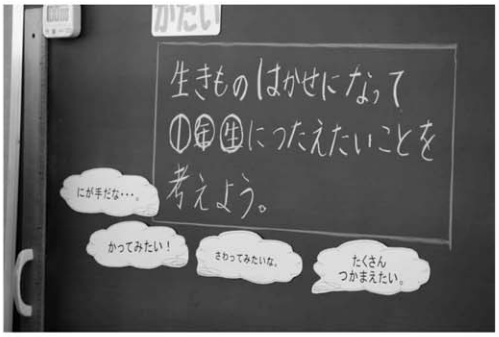
○ 実践の概要

本校第２学年の生活科の授業では、生きもののことを調べる単元を「生きものはかせになって、第１学年の児童に発表しよう！」というテーマで取り組みました。

授業では、本校における日常の授業の必須実践事項（別名『○○小ベーシック４・３』）を定めて実践に取り組んでいます。

■■■　○○小ベーシック４・３　■■■

１ 学習規律の確立	① 静寂の時間の導入
２ ねらいと学習内容の明確化	② 発問・指示の視覚化
３ 適切な評価活動と指導	③ 教師の肯定的な言葉がけ
４ 定着確認と評価	



教師の指示や児童の発表の視覚化

発問・指示の視覚化では、本時の学習課題が明確になるように板書しています。

また、「何を誰にどのように伝えるのか」という児童の発表や考えを、吹き出しのカードを用いて視覚化するなど、掲示や板書の工夫に取り組んでいます。

○ 実践の成果

本校では、「発達障がい支援成果普及事業」の成果として、「○○小ベーシック４・３」を位置付けたことにより、学校全体が一体となって授業づくりに取り組むことができました。

児童が考えたり、発表したりするときの手がかりを分かりやすく提示する取組は、児童一人一人が主体的に課題解決を図ろうとする意欲につながりました。

掲示、板書等への配慮③

小学校

分かりやすい板書の取組

活用した資料

実践事例集Ｐ16

－小学校～授業づくり－

○ 実践の概要

板書の様子

本校では、文字の抜け落ちや行をまたぐ文の視写で書き間違いをする児童が在籍していることから、低学年の児童や特別な教育的支援を必要とする児童への配慮の一つとして、板書の工夫を行っています。

具体的には、児童用ノートのマス目と同じ字数で板書するなど、板書とノート指導の一体化を図ることに取り組んでいます。

○ 実践の成果

板書とノートの字数を合わせたことは、特別な教育的支援を必要とする児童だけでなく、全ての児童にとって分かりやすい板書になり、スムーズにノートをとることができるようになりました。

掲示、板書等への配慮④

中学校

分かりやすい板書の取組

活用した資料

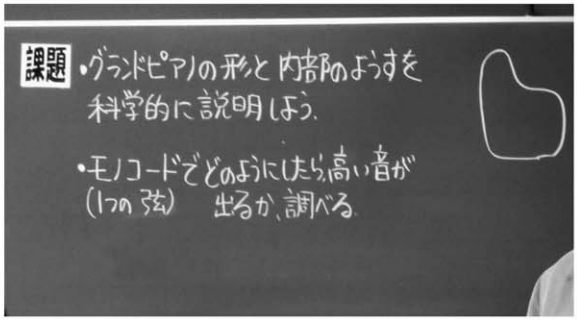
実践事例集Ｐ24

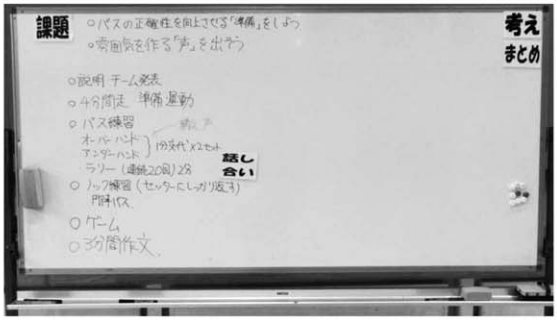
－中学校～授業づくり－

○ 実践の概要

本校では、取組の重点としている「学力の向上」に向けて、組織的な授業改善を推進しています。その取組の一つが「板書の工夫」です。

「全ての生徒に、授業の内容が分かりやすくなるよう視覚化し、どの教科の授業においても、安心して授業を受けられるようにする必要がある」という特別支援教育パートナー・ティーチャーからの助言もあり、学校全体で課題・考え・話合い活動・まとめで学習内容を整理して授業を進め、板書を工夫しています。





第１学年の理科（左）と保健体育科（右）

○ 実践の成果

本実践を通して、特別な教育的支援を必要とする生徒が学習内容を理解し、ノートを正確にとることができるようになりました。ノートがとれるようになったことで、家庭学習においてもノートを活用できるようになりました。

特別支援教育パートナー・ティーチャー派遣事業とは

特別支援学校のセンター的機能の一貫として、道立特別支援学校の教員を小・中学校等に派遣する取組です。特別支援学校の教員が学習指導の進め方や指導計画の作成等について継続した支援を行うなど、通常の学級や特別支援学級に在籍する発達障がいを含む障がいのある幼児児童生徒に対する指導や支援の充実を図ることを目的としています。

掲示、板書等への配慮⑤

高等学校

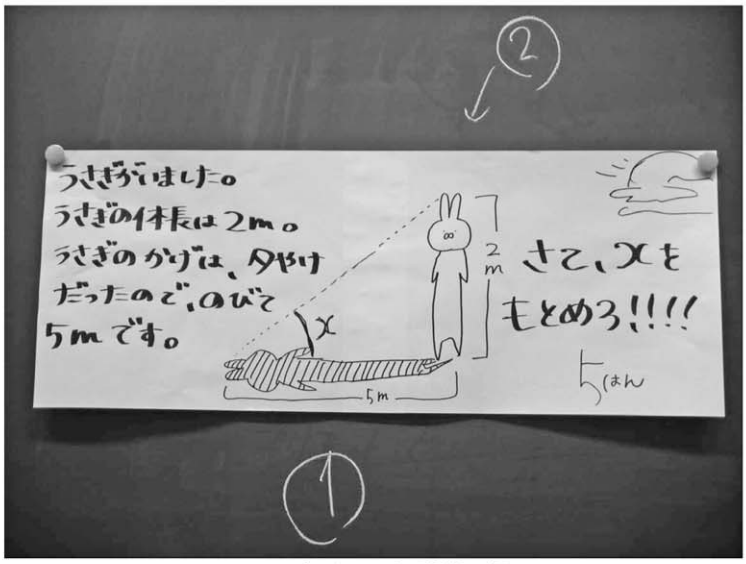
生徒の実態に応じ、
分かりやすい板書を目指した取組

活用した資料

実践事例集Ｐ24

－中学校～授業づくり－

○ 実践の概要



イラストを活用した問題の提示

本校では、学習した内容の定着や学んだことを想起することに時間のかかる生徒が在籍していることから、学習したことを記憶に止めておく（ワーキングメモリー）ことができるよう、文字だけでなく図を用いることに取り組んでいます。

具体的には、グループワークにおいて、生徒が問題を考え、解法を説明する場面を位置付けるとともに、生徒の作成した図を使用することにより、興味・ 関心を喚起し、意欲的に学習に取り組めるよう工夫しています。

○ 実践の成果

生徒がグループワークで問題を考え、各グループから出題された問題に取り組むことは、生徒の興味・関心を高めることとなり、主体的な学びにつながりました。

その結果、特別な教育的支援を必要とする生徒においても興味・関心をもって授業に参加するようになり、学んだことを覚えていることが増えてきました。

ワーキングメモリーとは

短い時間に情報を保持（記憶）し、処理する能力のことを指します。会話や読み書き、計算などの基礎となる日常生活や学習を支える重要な能力です。

静寂の時間の工夫①

幼稚園

静寂の時間を取り入れた取組

活用した資料

実践事例集全般

○ 実践の概要

本実践で使用した教材「ビー玉とケース」

本園の帰りの会は、おしゃべりが多く騒がしくなりがちでした。

そのため、子どもがおしゃべりを止めるきっかけや教職員が期待している行動が行えたときの結果（称賛の仕方等）を工夫することに取り組みました。

具体的には、帰りの会で、当番の子どもが手帳を配り終えるまで、全員が静かにすることができたら、子どもにビー玉をあげます。ビー玉を瓶の中に入れ、ビー玉が瓶一杯に貯まったら「お楽しみ会」を行うことを約束しました。

また、友達のよい行動を見つけた時には、互いに学級で紹介し合うようにし、子ども全員が目的をもって取り組めるよう工夫しました。

○ 実践の成果

本実践を通して、子どもが、肯定的な評価を得ることにより、自己肯定感を高めることができ、生活上の基本的なルール等を身に付けることができるようになりました。

「静寂の時間」の約束を意識するという行動が、他の場面における意識の変化にもつながり、場面ごとに必要な行動に気付き、自分から考えて行動できるようになりました。

静寂の時間の工夫②

小学校

静かな環境の中で、
注意・集中して行動する取組

活用した資料

実践事例集Ｐ９、10
－小学校～学級づくり－

○ 実践の概要

「リマインダー」として活用した教材

本校では、児童が「できそうだけど、できていないあと一歩」の課題に絞り、「実践事例集」を参考に、学習で使用する物の準備を行う実践に取り組みました。

具体的には、学習用具の準備ができず、授業が中断することがあったことから、終業後の静かな状態の中でリマインダーとなるカードを示し、次の時間の学習準備を一斉に行うことに取り組みました。

教職員の言葉がけによる指示だけではなく、児童が、自ら進んで次の準備を行うことができるよう学校全体でリマインダーを活用した取組を進めています。

○ 実践の成果

具体的な行動目標のもとに、児童の成長を評価したことや、すぐに取り組める実践に取り組んだこと、静かな状況の中で指示したことは、全ての児童が注意・集中することへとつながりました。

学習準備のほか、話を聞く場面全般において成果が見られるなど、学習体制を整えることにつながりました。

リマインダーとは

近年では、備忘のために利用するスケジュールやアラームなど、ソフトウエアの機能を思い浮かべますが、本来「思い出させてくれる物」という意味があります。本実践で用いた「次の準備」カードは、活動を行う際の大切なリマインダーの機能を有しているといえます。

静寂の時間の工夫③

小学校

静寂の時間を取り入れた取組

活用した資料

実践事例集Ｐ10
－小学校～学級づくり－
実践事例集Ｐ13
－小学校～授業づくり－

○ 実践の概要

第１学年で使用しているペープサート

第５学年の読み聞かせの様子

本校では、授業を始める前に学習体制を整えるため、静かにする時間と活動する時間を明確にし、継続・徹底することに取り組んでいます。

実践を行うに当たっては、児童の生活年齢や発達の段階に応じた方法を工夫し、第１学年では「おしずかに」というペープサートを用いて児童に伝えています。

また、第５学年では「読み聞かせ」を休み時間に行い、学習時間と休み時間の切り替えができるよう取り組んでいます。

○ 実践の成果

静寂の時間の取組を続けたことにより、教職員からの注意や言葉がけがなくても、ペープサートを見たり、読み聞かせを行ったりすることで、「静かにしなくてはいけない」と児童が意識できるようになりました。

児童に休み時間と学習時間の切り替えが身に付いてきたことから、現在では、ペープサートを用いたり、読み聞かせをしたりする回数を減らしています。

視覚支援の活用①

幼稚園

日課等を分かりやすく伝える取組

活用した資料

実践事例集Ｐ４

－幼稚園～保育の展開－

○ 実践の概要

日課を示す時計

道具の片付け方を掲示

本園では、担任と支援員が定期的に打合せを行い、どの子どもにも分かりやすいように、園での日課やルールについてイラストを提示しています。

子どもが日課に見通しをもって生活を送ることができることが大切と考え、特別な教育的支援を必要とする子どもには、その特性をさらに考慮することが必要と感じ、実践に取り組んでいます。

具体的には、子どもに伝えるときの方法には「具体物」、「絵・写真カード」、「サイン（身振り）」、「文字」、「話し言葉」があり、子どもの理解力に応じて、それぞれの方法を組み合わせて分かりやすく伝えることを全てのクラスで進めています。

○ 実践の成果

視覚的な手がかりを活用したことにより、以前より取組の内容を理解する子どもが増え、その結果、学級全体が落ち着き、特別な教育的支援を必要とする子どもへの指導をより丁寧に行うことができるようになりました。

視覚支援の活用②

小学校

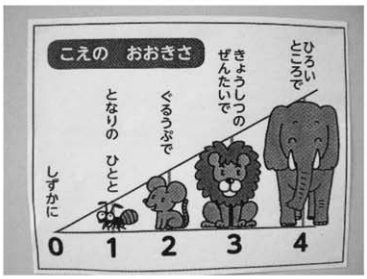
状況に応じた声の大きさを視覚的に伝える取組

活用した資料

実践事例集Ｐ12

－小学校～授業づくり－

○ 実践の概要



「こえの大きさ」を示すイラスト（左）とさいころ（右）

町の学校教育推進協議会で作成した資料

特別な教育的支援を必要とする児童は、抽象的な内容を理解したり、周囲の状況に合わせて行動したりすることを苦手とする場合があります。本校では、学校で大きな声を出す経験があまりなく、声を出すことに慣れていない児童に指導を行う際の教材・教具を工夫しました。

具体的には、声の大きさを4つの段階で視覚的に示し、児童が声の大きさをイメージできるよう工夫するとともに、さいころの目と同じ大きさの声を出すゲームを行うことで、児童が楽しみながら取り組める活動を行いました。

また、本町では、小学校や中学校の教職員が集まる学校教育推進協議会の特別支援サークル部会を定期的に実施しており、それぞれの実践を交流し合い、町の実践事例集を作成するなどの活動を通して、特別な教育的支援を必要とする児童への一貫した支援の充実を図っています。

○ 実践の成果

声の大きさを視覚的に提示したことにより、声の大きさのイメージがもてるようになり、大きな声を出すことができるようになってきました。また、「となりの人」や「広い所で」など、状況に応じて声の大きさを変えられるよう、継続して指導を行い、成果が見られました。

視覚支援の活用③

小学校

児童の集中力を持続させるための取組

活用した資料

実践事例集Ｐ15、16

－小学校～授業づくり－

○ 実践の概要

ＩＣＴを活用した課題の提示

本校に在籍する児童の課題として、課題に取り組むまでに時間がかかることや、集中して学習することが難しいことが挙げられます。

また、活動に見通しがもてない場面では、落ち着かない様子が見られます。

しかし、課題を把握し、活動に取り組み始めることができれば、自分で考えて課題を解決することができます。

そこで、課題が理解できるようタブレットを活用し、取り込んだ画像や動画を取り込み、テレビに拡大して提示するようにしました。

○ 実践の成果

言葉や文字では伝わりにくい内容についてタブレット等のＩＣＴを活用して視覚的に伝えることで、児童の学習内容の理解が進み、集中力を持続することができるようになるなど、特別な教育的支援を必要とする児童を含めた全ての児童にとって有効な取組となりました。

取組の効果を教職員で共通理解したことにより、学校全体の様々な教科で場面に応じてＩＣＴを活用することにつながりました。

視覚支援の活用④

中学校

学習の準備や後片付けをスムーズに行うための取組

活用した資料

実践事例集Ｐ22

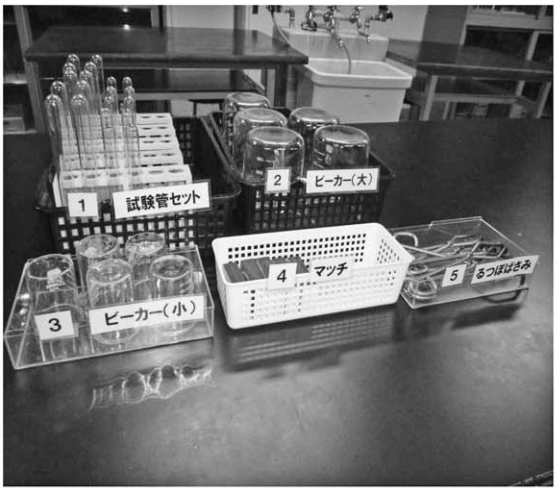
－中学校～学級づくり－

○ 実践の概要

本校では、実験の際に、グループ内で道具の準備や後片付けがスムーズにできない様子があり、最初に具体的なルールを設定して準備や後片付けを行うことに取り組みました。

１　授業の初めに、班の中で生徒一人一人の番号を決める。
２　実験の初めに、教師が「１番の人、試験管を取りに来てください。」と告げる。
３　実験の終わりに、「３番の人、ビーカーを片付けてください。」と告げる。

準備や後片付けの手順（例）



実験器具に数字と名称を明示

本実践では、実験の準備や後片付けの手順などのルールを事前に視覚的に示したり、個別に確認したりするなどして、生徒全員が自分の役割を理解してから実験を行うようにしました。

教師は、グループの中で、生徒がルールを確認しながら取り組めるよう働きかけを行いました。

○ 実践の成果

視覚的な手がかりを活用することにより、他の生徒と協力して活動に取り組むことが苦手な生徒も、学習の準備や後片付けを同じ手順でできるようになり、実験に伴う準備や片付けがスムーズに行えるようになりました。

視覚支援の活用⑤

高等学校

学習で使用する用具を整理する取組

活用した資料

実践事例集Ｐ30

－高等学校～授業づくり－

○ 実践の概要

学習で使用する道具等の構造化

本校では、言葉だけの指示では聞き取ることが難しく、道具を整理することが苦手な生徒が在籍しており、宿題やプリント等、大切な物を紛失することがありました。

そこで、家庭科の授業では、班ごとに使用する道具や、授業で使用するプリント等を一つのかごに入れるなど、構造化を図り、実習に取り組みました。

学習で使用する道具を分かりやすく整理することで、実習が終わった後でも道具の確認がしやすくなり、学習に必要なプリント等を紛失することがなくなりました。こうした取組が全ての教科で行われるよう、教科担当者間の情報交流に努めています。

○ 実践の成果

学習で使用する道具を整理することは、特別な教育的支援を必要とする生徒を含めた全ての生徒にとって効果的であり、学級の生徒全員が集中して実習に取り組むことができました。

構造化とは

抽象的な概念や目に見えない事柄等を、視覚的に分かりやすく伝えることにより、「本人がやりやすい状態」をつくることを指します。物理的構造化、視覚的構造化、時間の構造化等があります。

個に応じた支援の工夫①

幼稚園

実態把握をもとに
日々の指導に活用した取組

活用した資料

校内研修プログラムＰ７
－実態把握、支援方法の検討－

○ 実践の概要

内　　容	該当する場合○印
【長　所】 ・あいさつなど、人と簡単なやりとりができる。 ・興味のある物・事柄を言葉にできる。 ・決まったパターンや繰り返しの中から習得していくことができる。	
【がんばろうとしていること】 ・生活面（園での１日の流れ）の自立	
言語発達が遅い	○
数の理解が進まない	
人に対してよりも、物に興味・関心がある	○

【支援の方向性】

園での生活の自立に向け、身支度や後片付け、生活の流れなどが分かりやすくなるよう、絵カードを活用し、子どもが理解している内容に対して分かりやすく言葉かけを行うようにする。

園のスケジュール

本園では、登園後の生活の流れを、順序を示す数字と絵カード、矢印を用いて掲示しました。

そして、次に行うことを絵カードで示しながら、「次は、２番だよ」と、数字と絵カードを指し示して言葉がけを行いました。

○ 実践の成果

子どもの長所やがんばろうとしていることと活動を関連付け、子どもにとって分かりやすい視覚的な支援を行ったことにより、子どもは達成感をもち、自発的に取り組める場面が増えました。

個に応じた支援の工夫②

小学校

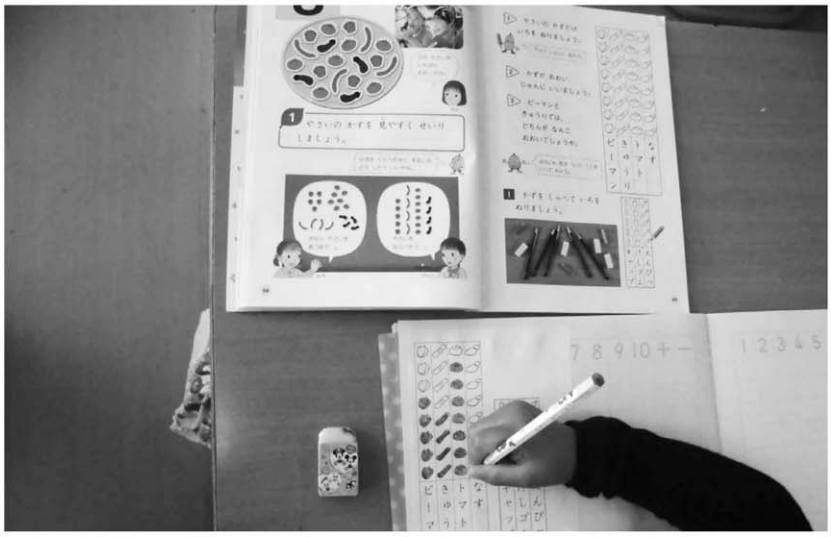
児童の問題解決を促す取組

活用した資料

実践事例集Ｐ13、14、15

－小学校～授業づくり－

○ 実践の概要



机上の統一

本校では、自分で見通しを立てて課題を解決することが苦手で、見通しがもてない状況になると心理的に不安定になり、すぐにあきらめてしまう傾向のある児童が在籍していました。

そこで、実践事例集の「指示の明確化の工夫」や「机上の統一の工夫」を参考に、教科書の中から注目させたい部分を引用したワークシートを準備しました。

本事例では、ワークシートの構成をシンプルにすることを通して、学習内容を理解し、自分で課題に取り組むことをねらいとしました。

このように、ワークシートを活用し、自分で見通しを立てて課題に取り組むことができるようにするとともに、板書の工夫やノートの指導なども、併せて行っています。

○ 実践の成果

ワークシートを準備したことは、特別な教育的支援を必要とする児童だけではなく、全ての児童に取り組むべき内容を分かりやすく示すことにつながり、児童が主体的に学習活動に取り組むことができるようになりました。

また、事後に、使用したワークシートをノートに貼り付け、次の時間に見直すことにより、前の時間の学習内容が振り返りやすくなりました。

個に応じた支援の工夫③

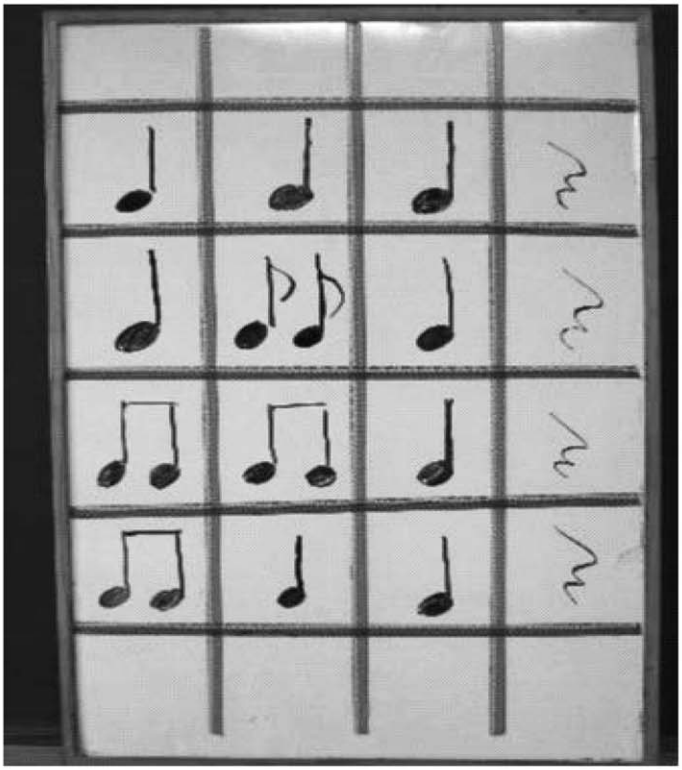
小学校

自らの状況に応じた課題を選択する取組

活用した資料

実践事例集全般

○ 実践の概要



リズム打ちの際に提示する音符教材

本校では、リズム打ちに抵抗を示す児童が在籍していたことから、音楽の時間の導入では、児童が楽しみながら活動できるようゲーム的な要素を取り入れました。

具体的には、音符を手がかりとして自分の選んだリズムを打ち（言葉やボディパーカッション等）を行いました。また、学級の児童全員がそのリズムをまねして次々にリレーすることに取り組みました。

本事例では、活動の直前に、いくつかのリズムを示して練習するとともに、平易なリズムを入れておくことで、児童が自分で難易度を自由に選択できるよう工夫しました。

○ 実践の成果

本実践では、苦手意識や緊張感のある活動に、ゲーム的な要素を取り入れ、自己選択して活動することに取り組みました。

その結果、リズム打ちに抵抗を示していた児童も笑顔で取り組むなど、楽しく学習に取り組むことができるようになり、苦手な活動においても主体的に取り組めるようになってきました。

個に応じた支援の工夫④

小学校

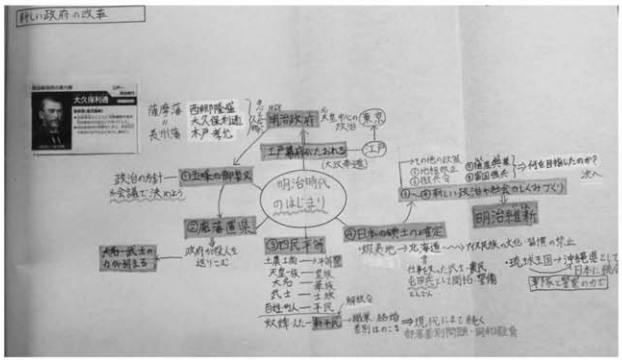
同時処理の特性を踏まえたノート指導の取組

活用した資料

実践事例集Ｐ13、14

－小学校～授業づくり－

○ 実践の概要



児童の得意な面を生かしたノート指導

本校では、言葉を聞いて理解するよりも、絵などを見て全体を把握した方が理解しやすいなど、同時処理が得意な児童が在籍していることから、児童の実態に基づいた視覚的に分かりやすいノート指導に取り組みました。

当該児童は、通常のノート指導において学習内容の全体像をイメージすることが難しく、学習内容の理解が進まず、意欲も高まらない状況でした。

そこで、同時処理が優位で、情報を一つの全体的なまとまりとして処理することが得意な児童の特性を生かすために、Ａ３判の方眼用紙を活用し、学習内容の全体がイメージできるようなまとめ方をするよう指導しました。その際、記憶に残りやすいように図解の色使いを工夫するとともに、それぞれの関連性が明確になるよう線で結ぶよう指導しました。

○ 実践の成果

本実践を通して、特別な教育的支援を必要とする児童はもとより、全ての児童が学習内容の全体を大まかに見通すことができるようになってきています。

今後は、学習内容の定着及び学習意欲の向上など、取組の成果を確認した上で、全校的な取組にしたいと考えています。

同時処理とは

情報を全体として捉え、部分同士を関係付けて、問題を処理していく能力のことです。同時処理の対義語となる「継次処理」は、一つ一つ順々に問題を処理していく能力のことです。

個に応じた支援の工夫⑤

中学校

５Ｗ１Ｈで内容の理解を促した取組

活用した資料

実践事例集Ｐ25

－中学校～授業づくり－

○ 実践の概要

「フランス革命」を５Ｗ１Ｈで説明すると

①	いつ	１７８９年
②	どこで	フランス
③	誰が	民衆（力を付けてきた市民階級や農民）
④	何をした	王制を廃止した
⑤	なぜ	国王などの特権階級に対する不満が増大
⑥	どのように	バスティーユ監獄を襲撃

本校では、自分で物事を整理して理解することが難しい生徒が在籍していることから、社会科において、発問及び学習課題の提示の工夫を行いました。

具体的には、歴史上の出来事を５Ｗ１Ｈに整理し、歴史上の出来事を考える際に必要な事項について端的に明示することにより、学習内容の理解を促し、フランス革命が起きた理由などの学習課題に対して、生徒が自ら取り組むことができるようにしました。

○ 実践の成果

授業で提示する学習課題を具体的に示すとともに、必要な情報を順序立てて視覚的に伝えたことにより、生徒が課題を把握し、自分で課題解決に取り組むことができました。

また、順序立てて確認しながら授業を進めたことにより、生徒が理解していない事項が明確になり、ポイントを絞った指導につながりました。

個に応じた支援の工夫⑥

高等学校

分かりやすく伝える取組

活用した資料

校内研修プログラムＰ45

－発達障がいの特性の理解－

○ 実践の概要

抽象的な言葉がけ	具体的な言葉がけ
ちょっと待って	○時○分まで待ってください
あそこに置いて	机の上に置いてください

本校では、抽象的な言葉を理解することが難しい生徒が在籍していることから、教師の指示の出し方について、校内研修プログラムの「学級づくり（教師の言葉がけ）」の研修シートの一部を変更した演習を校内研修に取り入れ、生徒の気持ちを体感しました。

その結果、分かりやすく伝えることの大切さについて、校内全体での共通理解を図ることができました。

例えば、「ちょっと待って」や「あそこに置いて」など、抽象的な言葉ではなく、「○時○分まで待ってください」や「机の上に置いてください」など、具体的に伝えるように工夫しています。

このような取組を進めるに当たっては、日常の具体的な事例に基づきながら、どのような言葉がけや指示が生徒に分かりやすく伝わるのかについて、教職員の共通理解を図りながら取組を進めています。

○ 実践の成果

教師の具体的な指示は、生徒にとって分かりやすいものとなりました。

その結果、生徒は見通しをもって活動したり、行動を調整したりすることにつながり、学校生活を円滑に送ることができるようになりました。

個に応じた支援の工夫⑦

高等学校

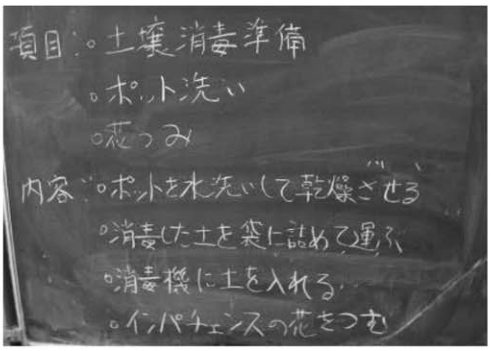
教室での効果的な取組を生徒の生活に般化させる取組

活用した資料

実践事例集Ｐ29
－高等学校～ホームルーム活動－
実践事例集Ｐ30
－高等学校～授業づくり－

○ 実践の概要

活動場所の視覚的な手がかり



活動内容の視覚的な手がかり

本校では、言葉だけの指示や複雑な板書では理解することが難しい生徒が在籍していることから、授業場面では、簡潔な板書を心がけています。取組の継続を通して授業での要点を捉えられるようになってきたことから、校外の授業においても、教室での授業と同様に活動内容等を板書し、分かりやすく伝えるようにしました。

校外で黒板がない場合は、ホワイトボードを教職員が持参し、必要に応じてその場で図を描いて説明することなどに取り組んでいます。

○ 実践の成果

言葉だけの指示を理解することが難しい生徒も板書の工夫により、学習内容を理解して行動することができるようになりました。

また、実習記録簿を記入することが難しい生徒には、記録簿の記入の仕方について板書することで、スムーズに記入することができるようになりました。

般化とは

心理学の言葉で、一定の条件反射が形成されると、最初の条件刺激と同一又は類似の刺激によって同じ反応が生じる現象をいいます。

ＩＣＴの活用①

幼稚園

活動内容を分かりやすく伝える取組

活用した資料

実践事例集Ｐ16

－小学校～授業づくり－

○ 実践の概要

電子黒板を活用した授業の様子

本園では、言葉による説明だけでは指示内容が伝わりにくい子どもが在籍していることから、子どもの興味・関心や集中力を高め、楽しく活動に参加できるよう工夫しています。

具体的には、電子黒板を用い、写真や絵、文字などを映すことにより、子どもが視覚的に理解できるように提示しながら、分かりやすい言葉を加えて伝えることに取り組んでいます。

○ 実践の成果

電子黒板等のＩＣＴを活用し、子どもたちにとって分かりやすく、興味がもてる視覚的な手がかりを提示したことにより、これまで言葉だけの説明では伝わりにくかった子どもを含め、全ての子どもの理解を促すことにつながりました。

その結果、学習意欲が高まり、全ての子どもが主体的に活動に取り組むことができるようになりました。

ＩＣＴの活用②

小学校

テレビを用いて学習の進度や内容を分かりやすく伝える取組

活用した資料

実践事例集Ｐ16

－小学校～授業づくり－

○ 実践の概要

ワークシートの拡大

タブレット端末の活用

実物投影機の活用

本校では、校内研究において、「発問・指示の視覚化」を授業実践における共通事項として位置付けています。

具体的には、全ての教職員が授業においてＩＣＴを活用した分かりやすい情報提示を行うなど、視覚的な支援の取組を進めています。

○ 実践の成果

「通常の学級において特別支援教育の視点を生かす」という考え方や手立てを、校内研究と関連付けたことにより、全ての学級で、タブレット端末や実物投影機を活用した授業が進められました。

その結果、児童の興味・関心が高まり、主体的に学ぶ児童が増えるとともに、学習内容の理解・定着につながりました。

ＩＣＴとは

情報通信技術のことです。ＩＣＴを活用した効果として、「子どもたちが分かりやすい授業の実現」や「個別学習における一人一人の能力や特性に応じた学び」、「子どもたち同士が教え合い、学び合う協働的な学び」などが挙げられており、新たな学びを推進することにつながります。

ＩＣＴの活用③

小学校

グラフの見方を分かりやすく指導する取組

活用した資料

実践事例集Ｐ16

－小学校～授業づくり－

○ 実践の概要

ＩＣＴを活用した授業の様子

本校では、言葉だけの説明や教職員の説明を聞きながら教科書の内容を確認することが難しい児童が在籍していることから、教科書等の内容を分かりやすく伝えるため、ＩＣＴを活用した取組を行っています。

本事例では、実物投影機を活用して、教科書をテレビモニターに映し、グラフの見方について、具体的に伝えることに取り組みました。

実物投影機は、このように、教職員による説明のほか、児童が自分のノートを投影して発表したり、細かな作業の仕方を演示したりする際などに活用しており、校内研修において教職員間で活用方法等を交流し、さらに工夫を進めています。

○ 実践の成果

児童は、教職員の説明を理解できるようになったことで学習意欲が高まり、全員が集中して学習に取り組むようになりました。

その結果、本時の目標であるグラフの見方を理解することができました。

今後は、机上の教科書のグラフを自分自身で読み取ることができるようスモールステップによる指導を行う予定です。

ＩＣＴの活用④

小学校

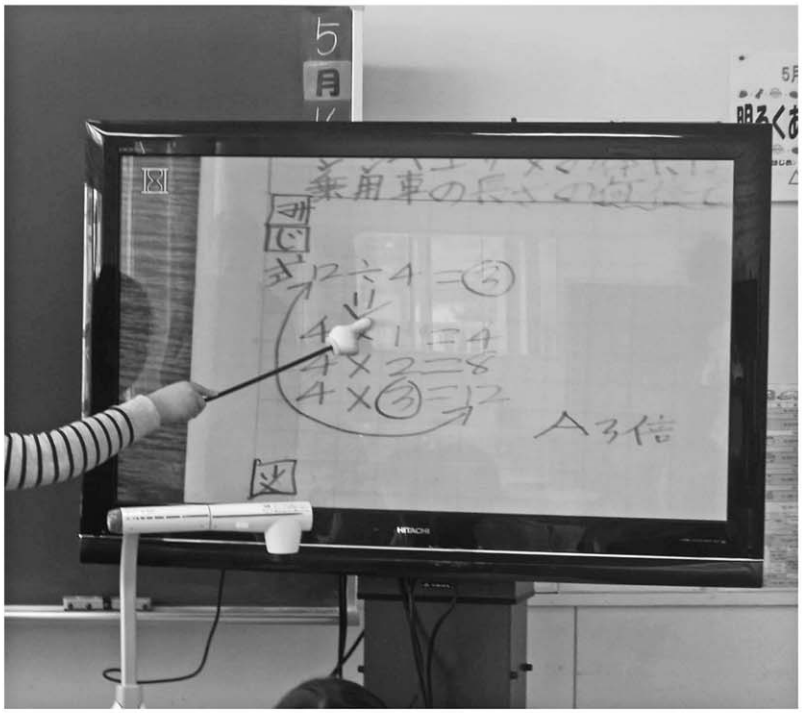
自分の意見を友達に分かりやすく伝える取組

活用した資料

実践事例集Ｐ16

－小学校～授業づくり－

○ 実践の概要



ＩＣＴを活用して児童が発表する様子

本校では、自分の考えをもつことができても、自分の意見を上手に伝えることができない児童が在籍していました。そこで、ＩＣＴなどの視覚的な情報を活用することによって、自分の思いや考えを表現する力を引き出すための工夫を検討しました。

具体的には、実物投影機を用いてノートをテレビモニターに映し、その画面を他の児童に示しながら説明することに取り組みました。その際、指示棒を使うことにより、指し示した画像について、言葉による説明ができるよう工夫しました。

○ 実践の成果

発表する内容をテレビ画面に写したことは、発表する児童が説明しやすくなるだけではなく、話を聞いている児童が、説明の内容を十分に理解することにもつながりました。

発表する児童は、指示棒で画面を指しながら、自分の思いや考えを自分の言葉で説明するようになるなど、発表に対する意欲が高まりました。

ＩＣＴの活用⑤

中学校

見通しを重視した取組

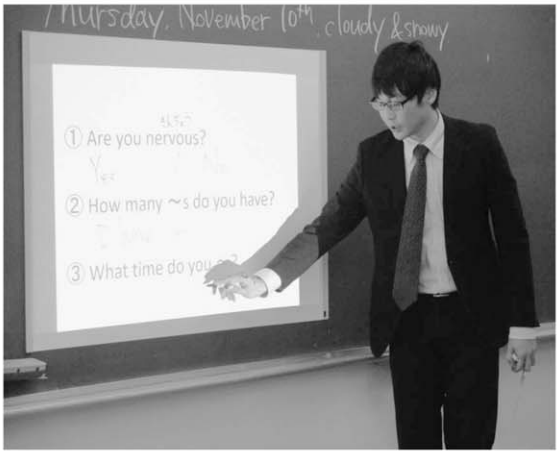
活用した資料

校内研修プログラムＰ40
－授業づくり－
実践事例集Ｐ26
－中学校～授業づくり－

○ 実践の概要

本校では、授業のゴールを示すことで、生徒が活動の目的を理解し、見通しをもって取り組むことができるのではないかと考えました。

そこで、課題を板書することはもとより、ＩＣＴを活用しながら会話文を提示したり、イラストで文章の意味を分かりやすく伝えたりするなど、生徒が学習活動の流れを見通せるよう心がけています。



ＩＣＴを活用した授業の様子

○ 実践の成果

本実践では、生徒が、学習の目的や意味を理解して取り組めるように支援したことにより、特別な教育的支援を必要とする生徒はもとより、全員の生徒が積極的に参加する授業となりました。

その結果、学習内容の十分な理解を促すことができるようになってきています。

授業を参観した教職員からは、「ICTを活用することで、学級の生徒全員が学習活動に取り組めており、とても効果的だった」等の感想を得ることができました。

デジタル教科書やマルチメディアデイジー教科書の活用①

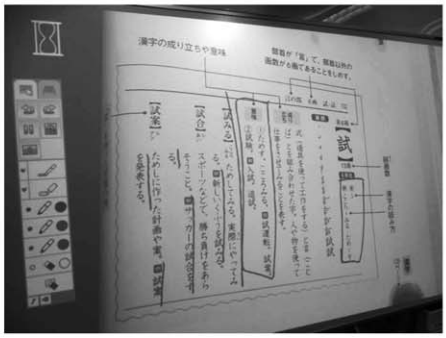
小学校

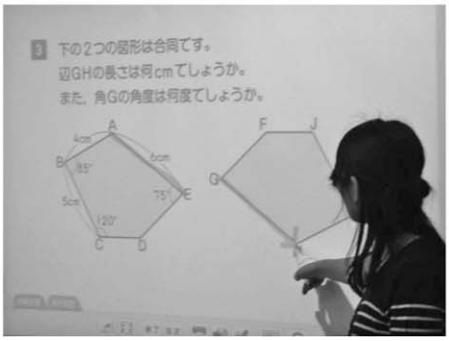
デジタル教科書を活用した取組

活用した資料

校内研修プログラムＰ75、76
－発達障がいのある子どもへの指導や支援に関するＩＣＴの活用－

○ 実践の概要





デジタル教科書を活用した授業の様子

本校では、言葉だけの説明や抽象的な内容を理解することが難しい児童が在籍していることから、ＩＣＴを活用して、より分かりやすく具体的に伝えることに取り組んでいます。

例えば、学校全体でデジタル教科書を活用し、重要な箇所にマークを入れるなどして、学習内容の理解を促しています。

○ 実践の成果

デジタル教科書を用いた学習活動は、児童にとって「どこを見ればよいか」が分かりやすく、「どのような課題を解決すればよいか」が明確になり、学習内容の理解はもとより、学習に主体的に取り組めるようになりました。

その結果、特別な教育的支援を必要とする児童だけでなく、全ての児童にとって効果的な取組となりました。

デジタル教科書とは

デジタル機器や情報端末向けの教材のうち、既存の教科書の内容と、それを閲覧するためのソフトウェアに加え、追加、削除などの基本機能を備えるものを指します。主に教師は電子黒板等により子どもたちに提示して指導するためのデジタル教科書と、主に子どもたちが個々の情報端末で学習するためのデジタル教科書に大別されます。

デジタル教科書やマルチメディアデイジー教科書の活用②

小学校

マルチメディアデイジー教科書を活用した取組

活用した資料

校内研修プログラムＰ75、76
－発達障がいのある子どもへの指導や支援に関するＩＣＴの活用－

○ 実践の概要

パソコンに表示して使用した場面

音声による読み上げを活用した場面

本校では、ふりがなを表示できるマルチメディアデイジー教科書を活用して、音読の練習などに取り組んでいます。第１学年から第５学年の支援が必要な児童は国語科と算数科で、第６学年の支援が必要な児童は社会科で使用しています。

今後は、一人一人の実態に応じた学習の充実に努め、ヘッドホン等を使用することにより、他の児童と同じ教室の中でも学習できるよう学習環境を整えることも必要と考えています。

※本事例は、特別支援学級における実践です。

○ 実践の成果

マルチメディアデイジー教科書を用いて、教科書を読み上げるスピードを自分に合った速さに変えたことにより、意欲的に音読の練習をするようになりました。

本実践を通して、音読が上達したことで、読み取る力が高まるとともに、学んだ言葉を日常会話で使えるようになってきています。

マルチメディアデイジー教科書とは

発達障がい等により、通常の検定教科書では一般的に使用される文字や図形等を認識することが困難な児童生徒が、パソコンやタブレット等の端末を使って通常の教科書と同じテキスト、写真等で学ぶ教科書です。テキストを読み上げる機能などがあります。

デジタル教科書やマルチメディアデイジー教科書の活用③

中学校

デジタル教科書を活用した取組

活用した資料

校内研修プログラムＰ75、76
－発達障がいのある子どもへの指導や支援に関するＩＣＴの活用－

○ 実践の概要

デジタル教科書を活用した授業の様子

本校では、第２学年の社会科（歴史分野）の授業で、デジタル教科書を活用しています。できるだけ大きい画面で表示することにより、生徒に見やすく、分かりやすく伝えるよう心がけています。

○ 実践の成果

教科書のどの部分を見ればよいか、生徒が画面で確認することができるようになったことから、聞き漏らしが少なくなっています。

また、動画などの資料も豊富であり、視覚や聴覚を使い、効果的にイメージの理解を深めることができるようになってきています。

デジタル教科書の作成は

平成20年９月に、「障害のある児童及び生徒のための教科用特定図書等の普及の促進等に関する法律（通称：教科書バリアフリー法）」が施行されました。この法律により、教科書発行者は、教科書デジタルデータの文部科学大臣等への提供が義務付けられ、提供されたデジタルデータは、ボランティア団体など教科用特定図書等（教科用拡大図書、教科用点字図書、その他障害のある児童及び生徒のために作成された教材であって検定教科用図書等に代えて使用し得るもの）の作成者に提供されることになりました。

デジタル教科書やマルチメディアデイジー教科書の活用④

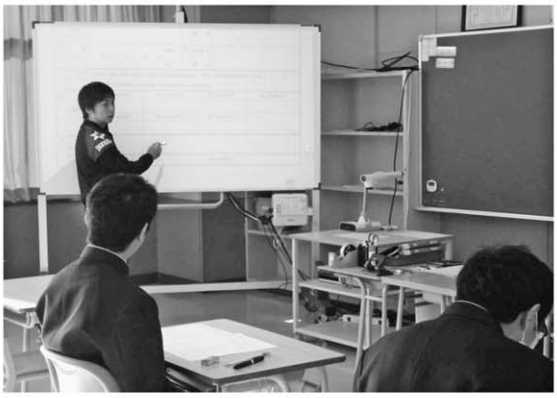
中学校

学校全体でデジタル教科書を活用した取組

活用した資料

校内研修プログラムＰ75、76
－発達障がいのある子どもへの指導や支援に関するＩＣＴの活用－

○ 実践の概要



デジタル教科書を活用した授業の様子

本校では、学校全体でデジタル教科書を活用することに取り組んでいます。

○ 実践の成果

デジタル教科書を活用した学習活動は、生徒にとって学習内容や方法が明確となり、学習内容の理解とともに、生徒の学習に対する参加意欲を高めることにつながりました。その結果、特別な教育的支援を必要とする生徒だけでなく、全ての生徒に効果的な取組となりました。

よさを認める工夫①

幼稚園

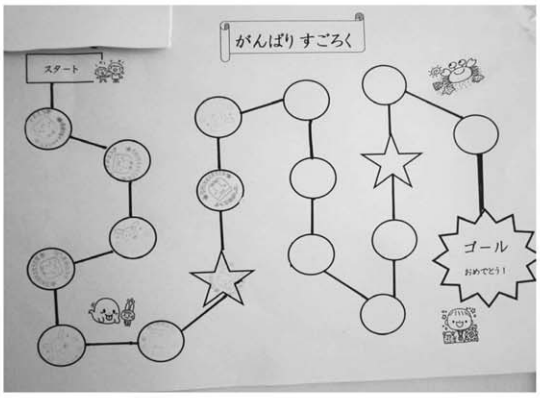
園全体で子どもの「よさ」を認める取組

活用した資料

実践事例集Ｐ１

－幼稚園～学級づくり－

○ 実践の概要



年中児を対象とした教材「がんばりすごろく」

年長児を対象とした教材「いいきもちのき」

本園では、全体で子どもの「よさ」を認める取組を行っています。

年中の学級では、給食や歯磨き、着替えなどの時に、周囲の動きが気になってしまい、ふざけて行動が進まないことがありました。そこで、帰りの会に、その日にがんばったことを褒めるとともに、努力が形になって見えるよう、「がんばりすごろく」を塗り進めていくようにしました。

年長の学級では、「一緒に遊ぼう」、「手伝ってあげるね」、「最後までやってみるね」「幼稚園は楽しいよ」など、一日の園の生活の中で聞かれた肯定的な言葉を帰りの会で振り返るとともに、葉っぱに見立てたカードを貼っていき、「いい気持ちの木」が肯定的な言葉で一杯になるようにしました。

○ 実践の成果

本実践を通して、「今日は○○をがんばった！」と、自分自身を振り返る子どもが増えるとともに、「今日は上手にできなかったので、明日はがんばる！」という声が聞かれるなど、苦手なことに対して挑戦する意欲も高まってきました。

また、友達のがんばりに気付くとともに、苦手なことに対してがんばろうとしている友達を応援する姿が見られるようになりました。

よさを認める工夫②

幼稚園

トークンエコノミーシステムを用いた「よさ」を認める取組

活用した資料

実践事例集Ｐ１

－幼稚園～学級づくり－

○ 実践の概要

システムに活用した「くまさんケース」

本園では、子ども一人一人が自らの行動を振り返り、自分の行動の「よさ」に気付くことができるようにするとともに、子ども同士が互いの「よさ」に気付くことができるよう取組を進めました。

具体的な取組として、年少児は、「自分ががんばったこと」、「友達にしてもらってうれしかったこと」を中心に、年長児は、「友達と一緒に頑張ったこと」、「うれしかったこと」があると「くまさん」に「ふわふわボール」を入れるというトークンエコノミーシステムを活用しました。たくさん「ふわふわボール」が貯まると、お楽しみ会を開催することにしました。

○ 実践の成果

子どもは、「いいこと見つけたよ」と教職員に伝えることが増えるとともに、くまさんのケースに「ハッピー！」と言いながら好きな色の「ふわふわボール」を入れることを楽しみにするようになりました。

教職員は、メリットとデメリットを共通した上で本実践に取り組み、子どもが互いのよさを認め合う学級づくりについて、教職員の連携を図りながら進めることができました。

トークンエコノミーシステムとは

トークン（代理貨幣）を集めることにより、価値のある活動などと交換できるシステムのことです。

よさを認める工夫③

小学校

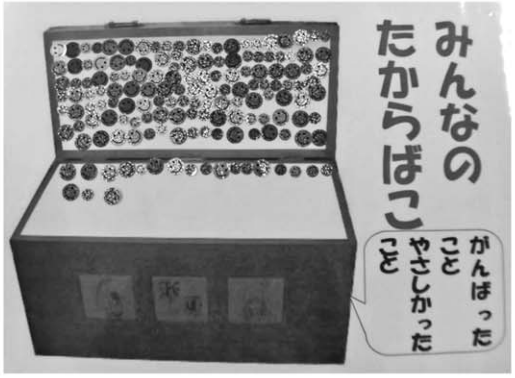
互いの「よさ」を認める取組

活用した資料

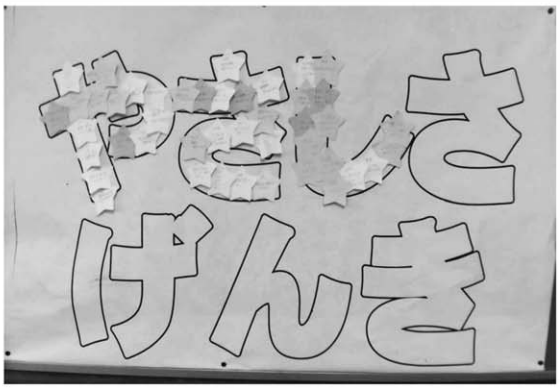
実践事例集Ｐ８

－小学校～学級づくり－

○ 実践の概要



たくさんのシールが貼られた宝箱



よい行動を付箋に書いた掲示物

本校では、「校内研修プログラム」を用いて発達障がいのある児童の特性を理解するための研修を行うとともに、日頃の学級づくりの取組や「実践事例集」を参考にした具体的な支援や指導について交流会を行いました。

第１学年では、よいことを進んで行ったり、学習でがんばりを見せたりしたときには花丸を書き、宝箱にシールを貼っています。また、第３学年では、よい行動や友達のがんばりを付箋に書き、模造紙に貼っていく活動に取り組みました。誰がどのような行動をしたのか文字として残るため、児童の意欲や自信の高まりにつながる様子が見られました。

このような取組を教職員間で共有するため、１学期末には、それぞれの学級づくりの取組を交流しました。

○ 実践の成果

取組を通して、宝箱にシールを貼ることを楽しみにする児童が増えるとともに、よい行動を主体的に実践しようとする態度が見られ、学習意欲が向上したり、学習規律をしっかりと守れたりするようになりました。

また、教職員間で効果的な取組を共有することにより、全校的な取組となりました。

よさを認める工夫④

小学校

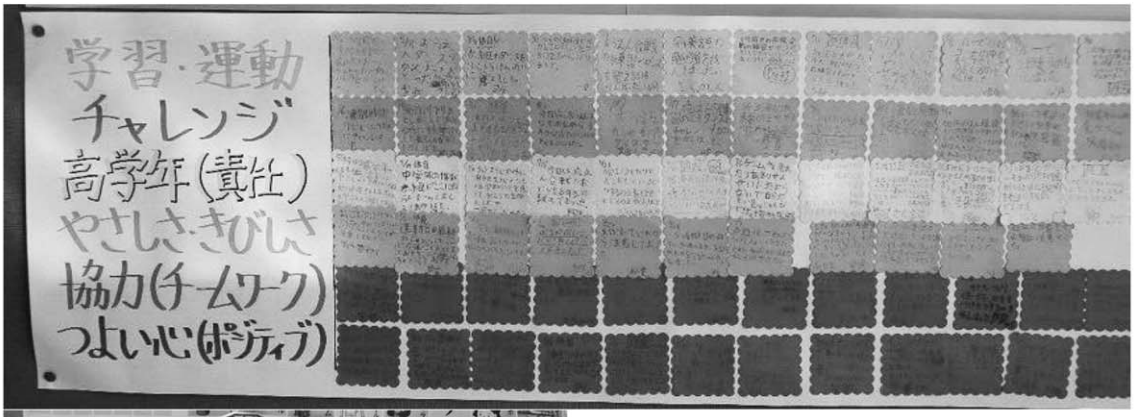
学級のよいところを認める取組

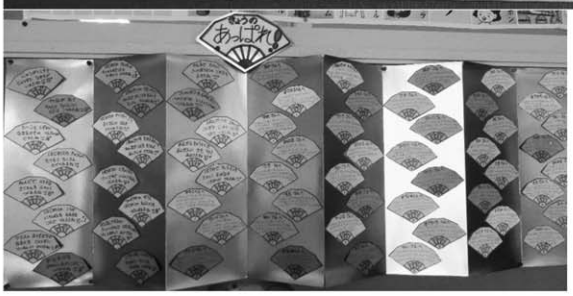
活用した資料

実践事例集Ｐ８

－小学校～学級づくり－

○ 実践の概要





学級の「よさ」を認める校内の掲示（一部）

本校では、児童の「よいところ」に着目した指導を意図的に行うことで、児童同士でも互いのよいところを認め合うようになると考えました。具体的な取組として、学校全体で児童のよいところを児童の発達に合わせて、視覚的に示しました。

その際、他の学級や学年の児童のよいところも見られるよう学校全体の掲示に努め、児童が他学年の取組を知る機会をつくりました。

○ 実践の成果

学級のよいところを認める取組は、児童が目標を意識して行動することや、友達のよさを見つけ認めることにつながりました。

児童は、どのような言動に価値があるのか、なぜ評価されたのかを理解することにより、次の行動へのステップアップにつながっています。

よさを認める工夫⑤

小学校

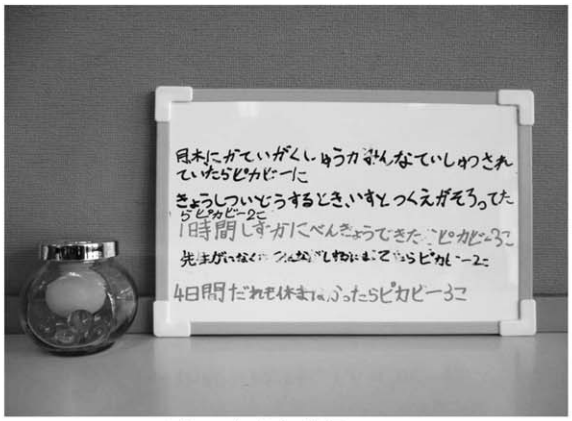
友達のよさを認め、学級全体の規律を守るようにする取組

活用した資料

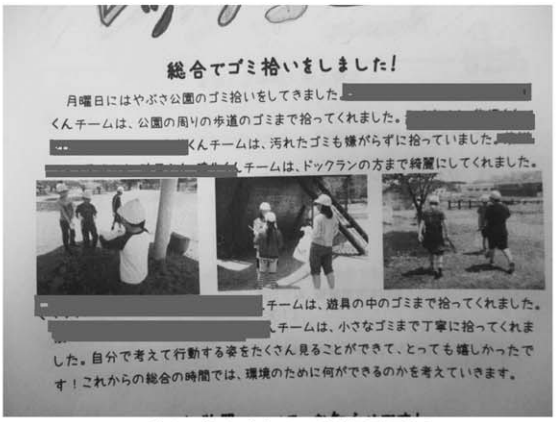
実践事例集Ｐ７

－小学校～学級づくり－

○ 実践の概要



みんなで決めた学級のルール



がんばりを伝える学級通信

本校では、家庭学習を忘れてしまう児童や、授業中に落ち着きがなってしまう児童が在籍していることから、児童みんなで学級のルールを決めるようにしました。みんなで決めた学級のルールを一定期間守ることができたら、お楽しみ会を行うことを約束しました。

本実践では、この取組と併せて授業中はもちろんのこと、児童一人一人のがんばりを認めるとともに、児童自身が自分や友達のがんばっていることを感じることができるよう学級通信にも児童の努力している様子を掲載するようにしました。

○ 実践の成果

本実践では、学級のルールを児童みんなで決めたことにより、児童が学級のルールを守ることへの意識が高まりました。

本実践を継続したことにより、児童が友達のよさを認めるようになるとともに、学級の約束を守るようになり、その結果、相手のことを考えて行動する温かな学級になってきました。

よさを認める工夫⑥

中学校

生徒会が中心となり
温かい言葉を考える取組

活用した資料

実践事例集Ｐ９

－小学校～学級づくり－

○ 実践の概要

１年３組

○エンジェルワード

・何か教えてくれたときや手伝ってくれたときに「ありがとう」
・うれしいことがあったときに「おめでとう」
・失敗したときに「大丈夫」
・つらいときに「がんばろう」

○デビルワード

・注意されたときに「うるさい」
・一生懸命、取り組んでいるときに「意味あるの？」

など

生徒が考えた言葉の掲示

本校では、学校全体の取組として、教師主導ではなく、生徒一人一人が相手の気持ちを考えて発言することで、互いに認め合い、温かな学級づくりができるようになるのではないかと考えました。

そこで、生徒会が中心となり、生徒自身が考えた「エンジェルワード（好ましい言葉）」と「デビルワード（好ましくない言葉）」を教室内や廊下などに掲示する実践に全校で取り組みました。

また、本取組と併せて、学級通信などで、生徒が努力している様子を記載するなどして、生徒が意識しながら取り組めるよう工夫しました。

○ 実践の成果

生徒会が中心となり、校内での約束事を生徒が自ら決めるとともに、生徒のがんばりを教師が学級通信等を通じて評価を積み重ねたことにより、生徒の意識が高まりました。

具体的には、生徒自身が言われて嬉しい言葉や温かい言葉を使うことにより、互いのよさを認め合うことができるようになり、相手のことを考えて発言する生徒が多くなりました。

よさを認める工夫⑦

中学校

学級の出来事を掲示する「思い出ギャラリー」の取組

活用した資料

実践事例集Ｐ９

－小学校～学級づくり－

○ 実践の概要

生徒の自己肯定感を高めるような学校のできごとの掲示（一例）

生徒は、自分自身を認めてもらえることにより、自己肯定感が高まり、自信をもって活動することができるようになります。そのような考えのもと、よりよい学級集団をつくることは、生徒一人一人の意欲が高まり、個別の支援がなくても安心して学習や生活に取り組み、力を発揮することができるようになるのではないかと考えました。

そこで、生徒が互いのよさを認め合い、学級の生徒全員で共有できるよう１週間の出来事（よかった取組、面白かったこと、努力していた人など）を写真で掲示し、週末の学級活動などで振り返る「思い出ギャラリー」の実践に全校で取り組みました。

○ 実践の成果

１週間の出来事を掲示したことは、生徒が写真を見たり、話したりする中で、互いのがんばりやよさを認め合うことにつながりました。

その結果、学級の雰囲気がこれまで以上によくなり、思いやりのある明るい学級になりました。

よさを認める工夫⑧

中学校

好ましくない言葉がけを
好意に満ちた言葉がけにする例

活用した資料

校内研修プログラムＰ34

－個別の指導計画の作成－

○ 実践の概要

研究協議の様子

巡回相談の活用の様子

教職員から、「生徒への声かけや対応の仕方を少し改善すると、さらによい効果があるのではないか」という提案があったことをきっかけに、すぐに活用できる校内研修プログラムを全職員に配付し、校内研修で研究協議に取り組みました。

（例）「何でそんなことするの。」

→「理由があったんだね、言ってごらん。先生聞くよ。」

校内研修で共通理解を図った内容をもとに、教職員一人一人が日々の実践を振り返るとともに、特別な教育的支援を必要とする生徒への指導や支援について、教育局の巡回相談を活用しました。

日常的な生徒への言葉がけを少し意識するだけで、生徒の気持ちを大きく変えたり、コミュニケーションを図りやすくできたりすることを研修し、教職員が共通認識のもと実践することができました。

○ 実践の成果

校内研修で特別支援教育の内容を取り上げたことにより、生徒への配慮について研修を深めることができました。本実践を通じて、それぞれの教職員が生徒への言葉がけを意識し、実践したことにより、今後、様々な実態の特別な教育的支援を必要とする生徒に適切な支援が行えるのではないかと考えています。

2　学級づくり、授業づくり

【活用シート】学級づくり、授業づくりについて点検しよう！

項目	現状	改善
校内環境、教室環境の工夫		
掲示、板書等への配慮		
静寂の時間の工夫		
視覚支援の活用		
個に応じた支援の工夫		
ＩＣＴの活用		
デジタル教科書やマルチメディアデイジー教科書の活用		
よさを認める工夫		
メモ		